オーディオ実験室収載

DSD 事始め顛末記(2)
―基礎操作の習得―

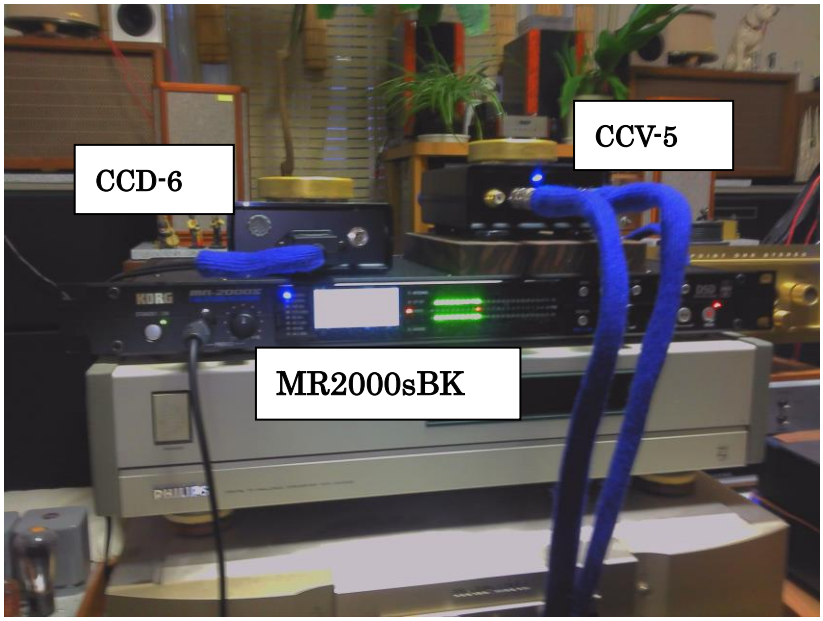
１．はじめに

古くはオープンリール、カセットデッキ、MD プレイヤーなど、最近は TASCAM のディジタルレコーダーの経験がありますが、まずは MR2000sBK の多機能さに由来する複雑な操作の習得から開始しました。

２．接続と再生方法の習得

アナログ信号の IN と OUT、ディジタル信号の IN と OUT、クロックの IN と OUT、USB 端子などを確認して必要なケーブルを接続し、目的とする Library の中から Project の File として予め収納されていたデモ音源（DSF，5.6MHz）を探し出し、再生、一時停止、停止操作を習得しました。

同時にアナログ出力で音を出しながら DSD フィルターON/OFF の音質確認を行いましたところ、DSD フィルターなしでは広帯域感がありますが、ノイズっぽい感じが付きまとう感じがしましたので、通常は DSD フィルターON を選択することにしました。



３．クロック入力テスト

次に GPS-777 から MR2000sBK に 44.1KHz クロック供給を行い、アナログ出力で

外部クロック入力あるなしの音質確認を行いました。クロックの選択は、①内部クロック、②S/PDIF 入力クロック、③外部クロックの三つが選択できますが、内部クロックより GPS-777 からの 44.1KHz 外部クロック供給を受けるようにした方が、解像度が上がり、全体に音が静かになる傾向があることが分かりました。MR2000sBK の外部クロックは 44.1KHz に限られていますので、EMT982 にも 44.1KHz を供給しようとするとクロック分配機能が必要です。MR2000sBK ではクロック入力端子の他、クロック出力端子があるので、そのテストを行いました。すなわち、MR2000sBK に 44.1KHz を入力し、そのクロック出力を EMT982 に入れてロックすることを確認しました。これとは別に、インフラノイズのクロックディストリビューターCCD-6 を借用していましたので CCD-6 経由でパラレルに供給してみましたところ、MR2000sBK のクロック出力端子経由よりも CCD-6 経由のパラレル供給の方が音質も良く、CCD-6 を発注することにしました。以下のレポートで、特に説明のない限り、複数の機器に同一周波数のクロックを供給する際には CCD-6 を経由させています。

４．録音の習得

４－１）PCM 録音

まず、最初に BS 録画から PCM と DSD の録音を実施してみました。PCM では 96KHz, 24bit WAV を選択し、CCD-6 経由で CCV-5 と MR2000sBK に 96KHz クロック供給し、BZT-9000→CCV-5→MR2000sBK の S/PDIF ディジタル入力で録音しました。再生は MR2000sBK のアナログ出力での再生と MR2000sBK の S/PDIF ディジタル出力での再生を試してみました。ディジタル出力での再生では CCD-6 経由で CCV-5 と MR2000sBK に 96KHz クロック供給し、MR2000sBK→CCV-5→DAC-1 のルートで再生してみたところ、MR2000sBK の内蔵 DAC のアナログ出力よりディジタル出力で DAC-1 経由の方が、ディテールが出て音楽の細やかな表情が出るように感じました。なお、MR2000sBK のアナログ出力、ディジタル出力とも BZT-9000 からの直接再生に比べて特に目立った音質の劣化はありません。

４－2）DSD 録音

次に DSF，5.6MHz を選択して DSD 録音を実施してみました。DSD の録音、再生はともにアナログ入力、アナログ出力ですので、入力信号は出来るだけ高品質に設定する必要があります。このため、録音に際して、GPS-777 から MR2000sBK に 44.1KHz クロック供給を行い、さらに CCV-5 に 96KHz クロック供給した上で、BZT-9000→CCV-5→DAC-1 のルートでアナログ入力を行いました。再生においては GPS-777 から MR2000sBK に 44.1KHz クロック供給を行って MR2000sBK アナログ出力をプリに導きます。

同じ曲の 96KHz，24bit WAV 再生と比較してみますと、WAV のくっきり、はっきり系に対し、DSF では艶が乗って柔らかく自然な印象を受けます。

５．まとめ

MR2000sBK の録音再生操作の習得を行いつつ、DSD フィルターやクロック入力の効果を確認できました。また、PCM 録音と DSD 録音の違いを確認し、DSD 録音のメリットの感触を得ました。こういった機器にありがちな若干素っ気ない音を予想していましたが、弦の倍音の出方も自然でクラシック用としても十分使えるという印象です。

以上